



鳥取県

面積3,507km²。人口約59万人。県庁所在地は鳥取市。日本海を挟んで対岸に位置する韓国、中国、モンゴル、ロシアなどの北東アジア地域との交流に力を入れる。1994年から同地域の地方自治体の首長が一堂に会し、共に発展していくために「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」を開催。また、農業、医療、行政などの分野で開発途上国からの研修員の受け入れも実施している。

モンゴルのお母さんを支える人づくり

すべての母親たちが、妊娠・出産を無事に迎えられるように。
モンゴル中央県と友好関係を結んでいる鳥取県は、
現地の医師や助産師と共に、妊産婦ケアの改善に取り組んでいる。

鳥取県



鳥取県立中央病院で新生児の沐浴法を学ぶサンダグ・トゥグスバヤル医師(右)とドゥゲルドルジ・ゲレルマー助産師(中央)

モンゴルに根づく 医療支援を目指す

「今日は腰痛を防ぐための体操をします。まずは四つん這いになって、息を吐きながら、腰のあたりを上下させてみましょう」
モンゴルの首都ウランバートルから南へ約30キロ。中央県ゾーンモド市にある中央県立中央病院の一室。産婦人科医や助産師が、出産予定日まで2週間となった妊婦たちに体操を教えている。日本でいう「母親学級」だ。

妊娠中の気分転換の方法や健康を維持するための食事指導などが学べる母親学級は、妊産婦が妊娠・出産の知識を高める良い機会。モンゴルではまだ一般的ではないが、ここ、中央県立中央病院では毎週実施されている。それは、日本のある地方自治体が、彼らと共に、母子医療の改善に取り組んできた証し。それが鳥取県だ。

鳥取県議会団のモンゴル訪問をきっかけに、鳥取県とモンゴル中央県の交流が始まったのは1997年。農業や行政分野での協力が始まり、99年からは保健医療分野にも活動を広げている。「医療サービスの向上を県の方針に掲げる中央県から要請があったのです」と、鳥取県文化観光局交流推進課の横地義昭さん。鳥取県立中央病院の循環器科、神経内科、産婦人科などで医師を受け入れ、研修を通して技術指導を行ってきた。

交流10周年を迎えた2007年に

モンゴルのお母さん



鳥取県での研修で学んだことをモンゴルに持ち帰り、妊産婦を対象に母親学級が定期的に開催されるようになった



鳥取県立中央病院で、人形を使いながら新生児のケア方法を学ぶバトムンフ・ゲレルマー助産師

は、保健医療分野での交流をさらに強化することを約束。鳥取県立中央病院の医師・看護師による現地視察を経て、2010年からJICA草の根技術協力事業を通じて「モンゴル中央県・中央病院における妊産婦の健康管理向上プロジェクト」妊娠高血圧症候群の「予防」「発見」「治療」の技術移転を行うことになった。「現地の医療レベルを鳥取県の医療関係者に『生』で確認してもらい、鳥取県として何ができるかを考えました」と横地さんは話す。

妊産婦を守る『人』を育てる

モンゴルの10万人当たりの妊産婦死亡率は、日本と比べて約10倍。その原因として多いのは、妊娠高血圧症候群によるものだ。胎盤への血流障害や血圧の上昇、腎臓の障害などにより、母体のみならず、胎児にも発育障害を与えてしまう。

この事業を推進してきた鳥取県立中央病院副院長の皆川幸久医師は、「妊娠中の食生活を改善すれば、妊娠高血圧症候群はある程度予防できる。まずはお母さんたちに正しい知識を持ってもらうことが大切です」と話す。さらに早期に見てできれば、症状を悪化させないように治療することも可能だ。「しかし、中央県では超音波診断装置の使用法など、基本的な知識が不足していたため、適切な診断が行われていませんでした」。

そこで、産婦人科医や助産師の診断・

治療の医療技術を向上させるため、鳥取県立中央病院の医師と助産師がモンゴル中央県へ。県内の医療関係者を対象に講習会を開催し、超音波診断装置や胎児心拍数モニタリング装置の正しい使用法を指導した。「最初は戸惑う人も多かったのですが、まずは基本からと、一つ一つ指導していきました。すると少しずつ、超音波診断で胎児の大きさの推定や、子宮の中の赤ちゃんの様子を診断する技術などが身に付いていったのです」と皆川医師は振り返る。

さらに力を入れたのは、中央県で妊産婦ケアを推進する『キーパーソン』となる医師や助産師の育成だ。中央県立中央病院の産婦人科長や中央県助産師会長などを鳥取県立中央病院に受け入れ、3年連続で約1カ月間の研修を実施。帝王切開の手術や婦人科の診察を視察するなど、日本の医療現場に生で触れて経験を積んだ。この時得たノウハウを生かし、今では彼ら自身が、中央県の医療関係者への講習会や妊産婦を対象にした母親学級の開催をリードしている。

「鳥取県との交流を通じて、一人でも多くのモンゴルの妊婦さんが健康な赤ちゃんを産めるようになれば、こんなにうれしいことはありません」と横地さん。鳥取県がはるくむモンゴルでの人づくりが、中央県のお母さんたちの生命を支えている。



鳥取県立中央病院で、胎児の健康管理に欠かせない胎児心拍数モニタリング装置の使用法などを実習で学ぶ



鳥取県立中央病院の池野慎治医師がモンゴル中央県に派遣され、医師や助産師に超音波診断装置の使い方を指導